



今年の暑い夏も、休まず浴場清掃を頑張った5人です。彼らが、暑い夏も休まず清掃をしてくれるから、気持ちよく銭湯に入れるお客さんがいます……。利用する人に喜んでもらえる素敵な活動。



ということで・・・今回、紙面では、ゴミの分別をしてくれる3人の取り組みをご紹介します。プラスチックごみの問題に、少しでも役に立てている???大きく見れば、地球環境の問題に貢献している、続けていきたい大切な「ゴミ分別」の活動。ぜひ、ご覧ください。→ → →

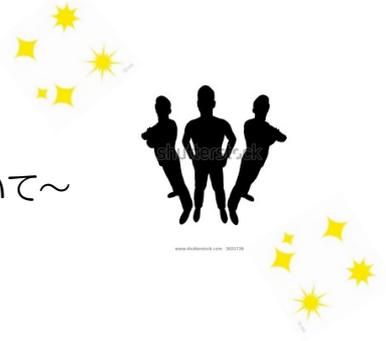
## 目次

- ・「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 51 」 <2～7ページ>  
わたげのゴミ分別事情 ～わたげのゴミ分別スリーメン!～
- ・新人職員紹介 <7ページ>
- ・後援会のご案内・ボランティアの募集・編集後記(編集部) <8ページ>

わたげのゴミ分別事情

～わたげのゴミ分別スリーメン!～

～AさんBさんCさんのリサイクル活動について～



☆おいしいジュース、飲んだ後は？



わたげの2階にはジュースの自動販売機が設置してあり、日中活動の途中で買う人、1日の最後を買う人、様々ですが、半数近い利用者さんの楽しみの一つとなっています。

以前は飲み終えた空き缶やペットボトルはそのまま捨てていました。しかし、横須賀市も飲み終えたペットボトルはラベルとキャップ、ボトルに分別して捨てるというルールに変わっています。

各利用者さんが飲み終えた空き容器は、そのままゴミ捨て場に捨てられなくなりました。初めは単純に「自販機の業者に回収を頼む」ことで解決していました。

しかし、「ペットボトルを分別して捨てる」ことは日常的に各家庭でも行うことです。わたげでも出来る方には行ってみたいと考えました。

☆分別やってみよう！Aさん、Bさんのチャレンジ！



まず、ペットボトルのジュースを購入し、1階に持って来て飲むお二方、AさんとBさんに分別をお願いしてみました。伝え方はごくシンプルなもの。普段飲んでいる席に小さな箱を3つ用意し、それぞれにラベルの写真、キャップの写真、ボトルの写真を貼り付けました。飲み終えた後、職員と一緒に分別します。数日繰り返し、出来てきたな、と判断した時点で、箱は撤去し、箱に貼ってあったラベルやキャップの写真をそのまま本来のゴミ箱前に貼り替え、ゴミ箱の前で分けてもらう形に切り替えました。



「ボトル」



「ラベルとキャップ」

なぜ最初からゴミ箱に写真を貼らなかったのか。飲んだらそのままゴミ箱に捨てる事が各利用者さんの習慣になっています。その場所に行ったら今まで通り即捨てたくなってしまふかもしれません。そうなる職員が「ちがう！ちがう！」「そうじゃない」など、どうしても制止や、禁止的な関わりをしてしまう可能性を心配したのです。飲んでいる場所に箱を置くことで、座って飲み始める時、もしくは飲んでいゝ途中でそれぞれ箱を見て確認することが出来て、何をすべきか受け入れやすいのではないかと考えたのです。はじめに一つ手順を加える事でお互い負担無く、「ペットボトルを捨てる」動きに新たな工程を加える事が出来たと考えています。



分別して廃棄する A さん(左)と B さん(右)です。A さんは今でも、机上で分別してから捨てるに行く時もあります。お二方とも分別が習慣になっています。

しかし、ジュースを買っている方全員が分別出来るわけではありません。難しい方もいます。そのような方にはそのまま捨ててもらっています。

結果的にわたげで出る殆どの空き缶や空きペットボトルは、そのままゴミ捨て場に捨てられず、結局自販機の業者さんに回収してもらうことになっていたもので、何かモヤモヤしたものが残りました。

そして、どうしようかと考えた際、一括して缶やペットボトルを分別してくれる方がいないか考えました。この人員を募集する上での条件は…

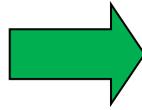
- ①捨てた容器内に微量にジュースが残っていた場合、それを飲んでしまわない方。
  - ②水の調整が出来る方(わたげの缶とペットボトルの回収ボックスにある物全て、一度水で濯ぐため)。
  - ③仕事を嫌がらず行っていただける方。
- の3つです。特に①は絶対に起きては困る問題なので、これは無条件に守れる方をまず探しました。

そこで、白羽の矢が立ったのがCさんです。②に若干の不安がありましたが、蛇口を3回押すと一定量の水が出て、自動的に止まる洗面台を使うことにしました。

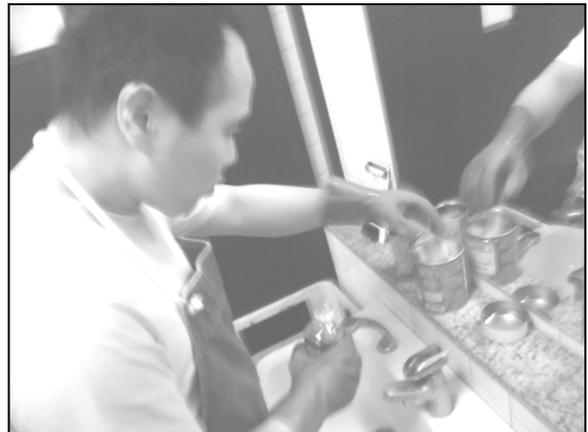
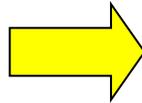
## ☆Cさんのチャレンジ!



Cさんには流れがわかるように、水の適切な使用量について「1回押す→水が出る→濯ぐ→水止まる→濯ぎ終わり」と写真と文字を貼り付けた文書を見せてお伝えしました。出る水の量が、1回分で過不足無く1本の空き缶やペットボトルが濯げるよう、職員が水流を調整しました。ゴム手袋をし、エプロンを着け、作業開始です。



水で濯いでビールケースに逆さに入れます。水を切るためです。



ペットボトルはキャップがついたまま捨ててある物もありますので、キャップを外して、別の容器に入れ、ボトル内を濯ぎます。

こちらは 空き缶



こちらは ペットボトル



ビールケースはCさんの左右に1ケースずつあり、空き缶とペットボトルを分けて入れます。その理由は、ペットボトルに付いたラベルを剥がし分別するからです。その日はこのままの状態を終了。

翌日、洗ったペットボトルは乾いています。ご本人にビニール袋を二つ渡します。Cさんは昨日ビールケースに分けて入れた空き缶、ペットボトルをそれぞれ別の袋に入れ、二袋を持って自分の作業エリアに行きます。

ペットボトル入りの袋は机の上に置き、空き缶入りは下に置きます。職員が箱を机の上に一つ置くと分別作業開始です。

机の上に置いた袋からペットボトルを出してラベルを剥がします(下の写真①)。剥がしたラベルは机上の箱に(下の写真②)、ボトルは床に置いた空き缶の入った袋に入れます(下の写真③)。

机の上に置いたペットボトル入りの袋がからっぽになったら、剥がしたラベルは施設内にあるプラスチック包装用のゴミ箱に捨てに行きます(下の写真④)。既にAさんとBさん用にと、ゴミ箱に写真が貼ってあるので、Cさんも迷うことなく入れることができます。空き缶、剥がしたボトルが入ったゴミ袋は口を結んで机の下に置いておきます。

①



②



③



④



こうする事で、空き缶やペットボトルは収集場所に出せる状態になりました。夕方帰宅前、廃棄する缶やペットボトルが入ったゴミ袋を建物外に置いてあるペールに入れて（下の写真⑤）全ての活動は終了です！

当初、支援者が気になっていたのは「濯いで貰うCさんの手に飲み残しが付いたら嫌だ」と感じてもおかしくないこの仕事を、Cさんがやり続けてくれるのか、という事でしたが、これは杞憂に終わりました。Cさんはとても良い表情で行ってくれました。ご本人の口から説明してくれたわけではありませんが、受注作業をずっと続けているCさんにとって、活動場所や内容が大きく変わる事が良い気分転換になっているのか、あるいはゴミを捨てた後、「助かります」と声をかけると少し誇らしげな表情を見せる時もあるので、自身の役割として「やり甲斐」を感じてくれているのかもしれない。30分間程の作業を黙々と続けるご本人の背中を見て、「まかせとけ」と言ってくれているような気がしています。都合良すぎますかね…。でも正直な方ですので、嫌だったらやらないのではないかなとも思っています。



今後、飲み終えたペットボトルの分別を出来る人が増えて行く可能性はあります。AさんBさんの方法でなくても、Cさんが洗ってくれたペットボトルを集めて、ラベルを剥がす練習として提供する方法もあるかもしれません。今後も出来る方には是非行って頂きたいと思っています。そうするとCさんの役回りも少し変わって来るでしょう。全員が分別出来るようになれば、今の作業は必要なくなります。でも、生活する上で変化はつきものですから、その都度説明していこうと思います。私は利用者さんとの関わりの中で、自閉スペクトラム症を伴う方々は『変化が嫌い』なのではなく、『何がどう変化するのか、わからないのが不安』なんだと知りました。その都度、わかりやすく伝える努力をしていこうと考えており、今後起こりうる変化に対し、私が特別心配していることはありません。

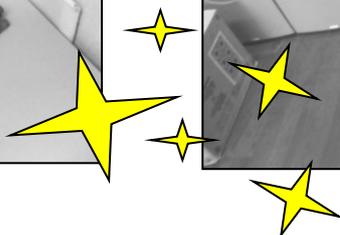
新たな取り組みにチャレンジすることを考える際、職員に必要なものは「提案力」ではないかと考えたりします。利用者さんが「うん、それならやってみようかな」と思って頂けるかが勝負どころです。自閉スペクトラム症の方々は「わかりやすく伝えてくれる人が好き」と私は考えており、分かり易く伝え続ける事によって職員と利用者さんとの間に信頼が生まれ、良い関係性の構築に繋がります。そうなれば、より新たな提案もし易くなると思うのです。良い関係性を築く為に、利用者さんが何をどう理解しているかを知り、ご理解ご納得して頂ける伝達手段を考え続けなければなりません。私は何年もこの仕事をしているのにわからないことだらけで、迷ってばかりで、不甲斐なさを感じるのも日常茶飯事です。今回のように「この人なら適任かも」と感じ、取組みの提案し、その活動を利用者が頑張る。そんな姿を見ることが私自身の喜びであり、やり甲斐であり、まさに、「冥利に尽きる」ってやつではないでしょうか。

ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

文：鈴木 研二

# お・ま・け

更に、Cさんのすごいところ・・・ご紹介



**終了後、エフロンを畳んで片付けます。ちょー綺麗！！**



## 新人職員紹介

この度9月1日より入社いたしました二ツ森邦佳（ふたつもりくにか）と申します。横須賀ではあまり聞き慣れない名前です。出身は青森県弘前市です。主人の転勤でこちらに引っ越して来て6年目となります。家では小学生と中学生の子どもが2人いるお母さんです。

この春、横須賀市に永住することになり、前から気になっていた「わたげ」に就職をすることができました。横須賀市に来る前は青森県の知的障害者支援施設で6年、横須賀市に来てからは三浦市の支援施設で5年働いておりました。今までは自閉症の方との関わりが少なかったので施設長や先輩方に指導して頂き少しでも多くのことを学び仕事に活かしていきたいと思っております。

短い挨拶となってしまいましたが  
これからよろしくお願ひ致します。



## たんぼぼの郷後援会のご案内

たんぼぼの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぼぼの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぼぼの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474

郵便為替口座加入者名 たんぼぼの郷後援会

## ボランティアさん 募集中

わたげ・ふぁず・こっとなはうすで、自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？

作業の検品、余暇活動の支援、清掃等

お手伝いをしていただけの方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わたげ 電話:046-844-0038 (担当:いまうじ)

E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふぁず 電話:046-884-8040 (担当:さかい)

E-mail: faz2018@wing.ocn.ne.jp

こっとなはうす 電話:046-852-8355 (担当:ひがしかわ)

E-mail: tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp

編集後記 ～編集部～

今、世の中では、海洋汚染の原因となっているプラスチックごみ対策を早急に取り組んでいくとしています。現在では、買物先で無料配布されているケースも多いレジ袋。そのレジ袋を有料化にすることで流通量が少なくなり、プラゴミ削減に繋げる狙いとしています。ゴミ問題は日本に留まらず、世界各国の問題でもあり、その国ごとに色々な対策を取っています。

現在、日本では包装容器のリサイクルを行っており、ペットボトルも対象の中の1つです。今回、施設でも何か出来ないか…そんな思いもあり、ペットボトルの「分別と洗う」という活動を取り入れました。大きなゴミ問題にとっては、ペットボトルの分別は小さな役割ではあります。しかし、まだまだペットボトルの分別は、全ての人が意識して行っているわけではないと思います。なので、施設内のペットボトルだけでも、適切に次のリサイクル工程へ引き渡せるよう、今後も頑張っって欲しい活動でした。そんな利用者の頑張る姿を見て…私も施設で利用者と買い物に行く時には、買い物袋を持って行こう！！

まずは、1人1人の小さな意識が、美しい自然が脅かされている海のゴミ問題解決に繋がることを願っています。

記:高橋

編集 社会福祉法人 横須賀たんぼぼの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21

TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp